



四季のたより



滋賀学区自治連合会ホームページ

HPアドレス <http://www.shiga-jichiren.jp/>

滋賀学区	世帯数	7,682	世帯
人口	合計	16,629	人
	男	7,944	人
	女	8,685	人

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



Bunkyo ぎやらりー

- 12月 よいこのもり保育園作品展
「サンタさんとおともだち」
滋賀学区健康推進協議会
- 1月 志賀幼稚園作品展
- 2月 皇子が丘保育園作品展

令和3年1月15日号の「四季のたより」は休刊です。

年末年始の滋賀市民センター業務

年末業務最終日
令和2年 12月28日(月) 9:00~17:00

年始業務開始日
令和3年 1月4日(月) 9:00~17:00

本年は、お世話になりました。来年も本年同様よろしくお願いいたします。

滋賀市民センター職員一同

滋賀村プロジェクトローメモ NO.8

福王子神社 紀貫之と大根??

これよりお目にかけますはイーチャン劇場寸劇、ゾクツ説歌舞伎仕立て「恋のなぞ解き、そのさまいやし、つらゆき大根の段」…万葉の世より滋賀は志賀の花園と歌に詠まれ、さくらを愛でる歌が多く残っております。ここ南滋賀村にも、万葉の歌人を祀る二社があり、眉目秀麗、白石の美男子、紀貫之祀る福王子神社、方や、貫之より「そのさまいやし」と酷評され、黒主と言う名前ゆえ、歌舞伎では悪役で知られた大伴黒主を祀る大伴神社が鎮座し、いにしえの古さを物語っております。

さて、「何故六歌仙の黒主が百人一首に選ばれず、何故貫之が大根好きなのか」そのふかーい、謎解きは…ご観覧の皆様のお気持ち一つ…
それでは はじまりはじまり…

これは寸劇の台本の前説ですが、大伴黒主神社と大川を挟んで福王子神社があります。祭礼には福王子神社は大根がお供えしてあり、大伴神社ではありません。「なんでやろう?」と思ったのがきっかけです。色々調べてみると近江輿地史略に正興寺村には柳庄があり柳大根が名産だったと言う話があったような…と言うことと、福王子神社の由緒書きに

「平安朝初期の最も優れた文学者で三十六歌仙の一人、「古今集」の代表歌人で、選者。大和の守紀望行の二男に生まれる。延長八年(930)正月、土佐の守となり赴任、承平四年(934)十二月任を終えて帰京の途、「土佐日記」を紀行、翌年十二月に入洛、その徳を慕いて一小祠を建て神霊を鎮め祀る。その後この地に勧請せらる。承応六年(1657)に再興。」とあります。

てなことで、土佐から帰京のおり通ったであろうこの地で倒れていた紀貫之が村人から大根をもらい命拾いしたことから物語は始まります。紀貫之と大伴黒主と小野小町と宗貞(僧正遍照)の四画関係仕立ての話です。

勧請依頼千有余に当たり、近い府県に呼びかけ昭和27年に両神社町民挙げて千年記念奉祀大祭として斎行しました。古より歌人が多く集った場所かもしれません。

滋賀村プロジェクト活動報告

- ☆ 南滋賀町廃寺跡に「きこりの会」さんの協力を得てベンチを設置しました。散歩の途中で春は桜をめで、一年を通じて三上山を望み大宮人に想いを馳せていただければと思います。
- ☆ 12月13日(日)、青少年学区民会議さんと共催で小学生の児童対象に「しめ縄作り」を開催し多数のご参加をいただきました。しめ縄作りを通じて「わらとはどういう物か」「しめ縄の意味と由来」を実体験でき、次の世代に残し繋げていきたいと考えています。わらの入手が困難な中、地元農家さんよりわらを提供いただき開催できました。



☆ 滋賀村魅力カレンダー2021、完成間近か。乞うご期待!